

# さんさ

登録番号：第1565号

登録年月日：昭和63年3月5日

登録者：農林水産省果樹試験場（茨城県つくば市藤本2-1）

育成者：吉田義雄 羽生田忠敬

土屋七郎 真田哲朗

増田哲男 別所英男

D. W. マッケンジー

来歴：「ガラ」と「あかね」の交雑実生

## 特性

### ■栽培特性

葉に父親の「あかね」から遺伝した黄色の斑紋を生ずることもあって葉色が淡く樹勢はやや弱い。特に、M.26台使用樹では接木不親和に基づく接ぎ目こぶが現われ、樹勢の劣ることがある。側枝はやや軟弱で、せん定時に切り返しを行わないと下垂しやすい。

えき花芽の着生は比較的多く早期結実性を示す。短果枝の着生、花芽分化も良好で豊産性である。「ふじ」、「つがる」、「王林」等の主要品種とは交雑和合性を示し、相互に受粉樹とすることができる。収穫期は長野で8月中・下旬、岩手で9月上・中旬となり、「つがる」より5～7日ほど早い。収穫前の生理的落果はほとんど認められず、落果防止剤の散布は不要である。

### ■果実特性

発表当時の平均果重は230gでやや小さいとされたが、栽培現地では280～330gとなっている。特に、適正な樹勢に維持されているわい性台木使用樹では、果実の肥大が良好で、350gを越すものもでていいる。「つがる」に比べて着色ははるかに優れている。直射光の当たった果実は鮮紅色に着色し外観は極めて美しい。ただし、樹冠下部の日当たりの悪い果実の色は淡紅色で色調が冴えない。典型的な直光着色型品種と言える。地色は収穫期近くなると緑色から乳白色に変わり、続いて黄色へと変化する。この変化は極めて明瞭で、乳白色から黄色に変る時期を収穫適期とみなしてよい。「ふじ」と同様果実の呼吸の山（クライマクテリックライズ）が不明瞭で、樹上日持ちは比較的良好であるが、収穫後急速に軟化が進む。日持ち性は室温で2週間前後、冷蔵では1か月程度である。糖度（屈折計示度）は12～14%、酸（滴定酸）は0.5%前後を示し甘酸適和。肉質は緻密で果汁も多く、食味は極めて優れている。

### ■病害虫抵抗性

主要病害の斑点落葉病、黒星病、赤星病に対して強い抵抗性を示す。

### ■地域適応性

「さんさ」の適応範囲はかなり広く、りんご生産県においてそれぞれ品質の優れた果実の生産が可能とされている。このため過剰生産気味にある「つがる」の更新、または「つがる」との共存による経営、経済効果が極めて高いと考えられ、各県で補助品種、奨励品種、有望品種等の格付けがなされ増植が進められている。長野県および岩手県における平成3年の普及面積はそれぞれ21ha（りんご栽培面積の約0.2%）、32ha（0.8%）となっている。また、平成12年までの振興計画では、長野県が早生品種25%の内の7%を、岩手県は190～200ha（約5%）を目指している。これらの県にあっても、地域（農協）によっては10%程度の計画も示されている。「つがる」との共存の点からは、同品種の現有生産比率15%を「さんさ」と折半の各7～8%まで持込みたいと考えている。

（土屋七郎）